HPVワクチン（サーバリックス）の接種をご希望の方に

HPVワクチン（サーバリックス）の接種を実施するにあたり、接種を受ける方の健康状態をよく把握する必要があります。この説明書をお読みになり、「HPVワクチン（サーバリックス）接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。なお、お子さまの場合、健康状態をよく把握している保護者の方がご記入ください。

HPVワクチン（サーバリックス）の発がん性HPV16型、18型における感染予防

①サーバリックスは、すべての発がん性HPVの感染を防ぐものではありませんが、子宮頸がんから多くみつかるHPV16型、18型の2つのタイプの発がん性HPVの感染を防ぐことができます。

②サーバリックスは接種時に**発がん性HPVに感染している人に対して、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変の進行を遅らせたり、治療したりすることはできません。**

③ワクチンを接種した後も、ワクチンでは予防できない型の発がん性HPVによる病変を早期発見するために子宮頸がん検診の受診が必要です。市区町村が実施する公的子宮頸がん検診は、20歳以上を対象として1～2年に1回の受診間隔で実施されますので、定期的に受診しましょう。気になることがありましたら、すぐにワクチンの接種を受けた医療機関にご相談ください。ワクチン接種後も、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。

HPVワクチン（サーバリックス）の効果と副反応

サーバリックスは、臨床試験により15～25歳の女性に対するHPV16型と18型の感染や、前がん病変の発症を予防する効果が確認されています。10～15歳の女児においては予防効果に対するデータはありませんが、サーバリックスを接種すると15～25歳の女性と同じように抗体ができることが確認されています。

主な副反応は、注射部位の痛み、赤み、腫れ、頭痛など、全身症状として倦怠感、発熱を伴うことがあります。また、重大な副反応として、ショックやアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応のこと）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、ギラン・バレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害など）が起こる可能性があります。

予防接種を受けることができない方

(1)明らかに発熱（通常37.5℃以上）している方
(2)重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
(3)過去にこのワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
(4)その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

予防接種を受ける前に医師への相談が必要な方

(1)血小板が少ない方や出血しやすい方
(2)心臓血管系・腎臓・肝臓・血液・発育障害などの基礎疾患のある方
(3)予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
(4)過去にけいれんを起こしたことのある方
(5)過去に免疫不全と診断された方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
(6)妊婦または妊娠している可能性のある方
(7)現在、授乳中の方
(8)最近1か月以内に予防接種を受けた方

接種後の注意

(1)接種後に失神が起こることがあるので、接種後30分程度は、接種施設で背もたれのある椅子にゆっくり腰掛けて、体調の変化がないことを確認してから帰宅しましょう。
(2)接種当日は激しい運動を避け、接種部位を清潔に保ってください。接種当日の入浴は差し支えありません。
(3)接種後に接種部位の異常な反応や体調の変化を感じた場合、高熱、けいれんなどの異常な症状があらわれた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。
(4)本剤の接種により健康被害が発生した場合には「医薬品副作用被害救済制度」により治療費などが支給される場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

接種予定日	月　　日（　　） 時　　分頃	医療機関名	

グラクソ・スミスクライン株式会社